

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2019年7月24日
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)
社会福祉法人陽光会 HP <http://youkou-kai.com>

89号

子どもたちの遊ぶ時間と遊び場がずいぶん少なくなっているように思います。田舎育ちの私は、幼いころから思いっきり体を使って遊んでいました。小学生のころ学校でよく友だちと「馬とび」をしました。何人もが四つ這いで長くつながった馬をドンドン飛び越えていく心地よさは何ともいえません。木登りもしました。桑の実、ぐみ、山葡萄……、「あそこにもっと赤い実が」と、上へ上へと挑み、登る技術が身に付きました。同時に、危険から身を守るすべも獲得していききました。木と土と石と広場があれば、遊びの幅は無敵です。そして友だちがいれば最高です。今、大人になって忙しく仕事をしていても、めいっばい自分の力を試したり、いろんなことに面白さを感じる感性が生活を豊かにしてくれています。何よりも友だちとのワクワクした時間が、人を大好きにしてくれました。自由に遊べる場所を子どもたちに増やしていきたいと思っています。 H・T

4歳児。仲間と遊ぶ



桜の季節に茂呂山公園で、名前のとおり、山のような斜面からなる公園です。2歳くらいから楽しめて、手をついて斜面を登ったり、体を思いっきり動かすことができるのが魅力！ 植込みや高木など緑がいっぱいで、広場もあり、走り回ったり虫探しなどの探検をするのもうってつけです。どどめ(桑の実)、どんぐり、松ぼっくりなど、季節によってさまざまな発見があり、宝物もたくさん見つかる公園です。



保育園でおすすめの、ご近所の公園を紹介します。

さあ、お散歩へ！！

「だんご虫がいたよー！」「てんと虫、見つけたあー」
ワクワクドキドキの体験がいっぱいできる公園。小鳥のさえずり、風にゆれる木の葉、雲の流れ……、感性豊かな自然のびびと、子どもたちの心も体も育みます。そんな公園は、お父さん、お母さんにとっても心地よい時間を共有できるはず。お出かけ前には暑さ対策、虫対策を忘れないで。あまり暑い日はお部屋で過ごしませう。



葉っぱのお面？ 柿の木広場で、2歳児

イチオシ！！

「ごどもの森」公園

水道タンクそばの公園。すべり台をすべったり、草むらの陰を探索したり、広い芝生ではのびのびとリズムをしたり、思い思いに遊んでいます。乳児の子どもたちは、入口のなだらかなスロープをよちよちと歩いて登ることも楽しんでいます。

固定遊具はブランコとジャングルジムの二つだけ。でも鬼ごっこなど、たくさん走り回れる楽しい公園です。春にはアリの巣がたくさん見つかり、アリの追いかけてたりつかまったり、子どもたちの大好きな公園のひとつです。



自然に包まれた広々とした公園の中に遊具や子ども農園、水遊びやどろんこ遊びができる場所も



ワクワクするね、ロープジャングルジム

年長さんの足で20分ほど歩いたところに「ごどもの森」公園があります。自然いっぱい公園で、思いっきりどろんこ遊びができて、虫さがしは草むらから畑まで追いかけて、自由に遊べます。大きいハンモックに揺られたり、ターザンロープや、ロープジャングルジムによじ登ったり、ダイナミックな遊びができる公園です。

イチオシ！！

北町保育園 どんぐり山憩いの森



お散歩にもってこのどんぐり山憩いの森、行くたびに新しい発見があります

保育園から徒歩15分のところにある「どんぐり山憩いの森」は、夏は緑の木々が暑い日差しを和らげ、秋には落ち葉やどんぐりがいっぱい！ 探索したり、走り回ったり、自然のなかで気持ちを開放できる、まさにイチオシの公園です。

親子でいっしょにあそびましょう

●陽光保育園●

2019年度も、保育園の子どもたちが日ごろ遊んでいる「砂遊び」と「リズム遊び」を主に計画しました。これまでに参加されたみなさまからも「家庭ではできないことができてよかった」「とても楽しかった」など、たくさんの感想をいただいています。公園ではできない遊びが体験できますよ。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。
場所 陽光保育園(板橋区大谷口上町23-1) ☎3956-1068
時間 午前9時30分～11時(赤ちゃんは10時30分まで)
対象 0歳児～就学前のお子さんと保護者
*参加ご希望の方は実施予定日の3日前までに電話ください。
*動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
*お天気により内容を変更する場合があります。
*0歳のお子さんは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

2019年度◆年間予定

7月16日(火) 終了	8月20日(火)	9月17日(火)
10月15日(火)	11月19日(火)	12月17日(火)
1月14日(火)	2月18日(火)	3月3日(火)

*9月は看護師が「健康」の相談をうけ、11月は栄養士が「食」の相談をうける予定です。

●北町保育園●



砂場の遊びはやめられない……

毎日砂場に出たい子どもたち。4歳児の子どもたちは「夕方に帰ると、「今日、砂場に出るよな？」と目で訴えてきます。いまは、大人がつくった砂の山にトンネルを掘るのが流行っていて、トンネルを開通させて水を流して楽しんでいます。水の勢いで少しずつ穴が広がると、「入れかまー」と、みんなでゲラゲラと笑って楽しんでいきます。



トンネル、大きくなったよ！

●陽光保育園● 近況

●板十小あいキッズ●



梅雨の晴れ間を見はからって、毎年恒例となっている七夕の短冊の色染めを行いました。2年生以上は色染めを経験したことが多く、折り方を工夫し、完成図をイメージしながら素敵な短冊を作り上げました。初挑戦の1年生は、思い思いのやり方で色染めを行いました。とても個性的な短冊になったでしょ？



右：キウイの花
左：大きなヒワの実

●桜台第一保育園●

桜台第一保育園の園庭には、びわ、柿、みかん、キウイと、実のなる木があります。「びわがなったよ」「みかんの花がさいたよ」「みかんが青くなったよ」と、子どもたちが気にかけて、様子を見ています。今年はすでにびわを収穫しました。そして受託4年目にして初めてキウイの花が咲きました。おいしいキウイが実ることを、みんな楽しんでしています。

保育園で働きますか？

正規の保育士を募集しています。
勤務地：陽光・北町・桜台第二保育園
採用：2020年4月1日
*詳しくは、陽光会HP「求人情報」をご覧ください。

「ごあんない

- 陽光保育園●運動会
日時 10月6日(日) 9時
会場 中根橋小学校校庭(雨天・同校体育館)
- 北町保育園●運動会
日時 10月5日(土) 9時15分～13時30分
会場 北町保育園園庭(雨天・北町小学校体育館)
- 共育講座
講師 広木克行先生(神戸大学名誉教授)
日時 11月30日(土) 13時30分
会場 北町保育園ホール
- 桜台第二保育園●運動会
日時 10月19日(土) 9時～13時45分
会場 桜台第二保育園園庭
※雨天・開演第三小学校体育館
- 板十小あいキッズ
●夏のこわいお話
日時 8月27日(火)
会場 板十小・図書室
- 夏の終わりのミニコンサート(ピアノ・サックス他)
日時 8月30日(金) 15時
会場 板十小あいキッズ・クラブ室
- 陽光会後援会●納涼会
日時 8月23日(金) 19時
会場 陽光保育園



たてわり保育 異年齢でつながる

北町保育園では3、4、5歳児の異年齢保育「たてわり保育」を、月に1回程度行っています。各クラス15名いるので、全体で45名になる子どもたちを赤、青、緑の3つのグループに分けて活動しています。

年度はじめにグループ決め

たてわり第1回目は、年度はじめのグループ発表です。4、5歳児が「誰と一緒にかな？」とドキドキしているなか、3歳児は「今から何が始まるんだろう？」とそわそわして落ち着かない様子です。

発表の前に5歳児に「たてわりってなあに？」と聞くと、「散歩に行く！」「一緒にごはん食べる！」「元気に答える姿に、3歳児も「よくわからないけど楽しそう！」「不安の色が薄くなります。グループ発表では喜ぶ子もいれば、まだ不安そうにしている子も

「きょうだい」で手をつないでお散歩へ



「きょうだい」で手をつないでお散歩へ

子どもの世界

～桜台第二保育園～

2歳児 — ボウシはボウシでも……

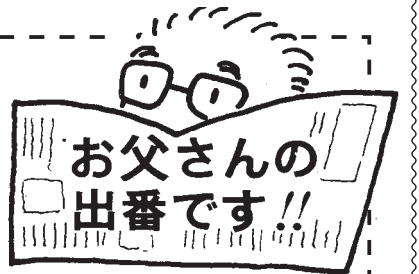
散歩中、ヤマボウシの木を見つけ、「あれは、ヤマボウシっていうんだよ」と保育士が指さしていました。すると、Aくんが自分のかぶっている帽子を押さえて、「せんせい、みて！ぼうしかぶってるよ」と教えてくれました（ボウシ違いかな?!）。

2歳児 — カンちがい？

散歩中、通りかかった家の玄関先に陶器の犬が置かれていました。その犬に、「ワンワンだ」「いってきます」「バイバイ」と手を振る子どもたち。そのときBくんが、「あのいぬ うごかないよね」とボンッと言いました（動いたらびっくりだね）。

子どもの力を実感

小学生と保育園児の二児の父親です。小学生の通は5年生保育園児の大翔（ヒロト）は5歳児クラスです。



お父さんの出番です!!

よく行くクリーニング店の店員さんは無愛想で少し苦手。なんとなく気まずい空気になるので、紛らわすため、ヒロトを連れていきました。店に入ると、店員さんは相変わらずぶつさらぼうで眉間にしわを寄せている。混雑もしてきて後ろに行列ができ、少し焦りも感じていた。そんななか、ヒロトがちょろちょろして、会計の邪魔をしないかハラハラしていました。連れてきて失敗だったか……。

帰り際、店員さんがヒロトに「きょうだい」と言ってくれました。意外な感じでしたが、うれしかった。それなのに、ヒロトは無視をして背を向けたため、「挨拶は！」「言っと、ヒロトは体を半身向き直って指をパチッと鳴らす格好をして、店員さんを指差し、「アディーユー」と言った。

その瞬間、店員さんは今まで見たことのない満面の笑顔で「カッコいいねー！バイバイ！」と笑ってくれました。店内が笑いに包まれ、和やかな雰囲気変わりました。子どもの力を実感する出来事でした。

上のお姉ちゃんが小学校五年生となり、ようやく記憶に残る年頃になってきたことで、そのころの自分と無意識に比較するようになってきました。親としての比較もそうです。あのころの自分は、今の自分と同世代なのだと思うと、不思議な感じになります。あのころの母は、厳しいながらも優しいさがあり、父には、しつけよりも遊んでもらった記憶が多い。家族旅行もたくさんしたし、幸せな家庭だったんだと思う反面、今の自分は子どもにどう向き合っているのか、少し後ろめたくなります。世代が変わっていく、家族リレーの中間を走っている今、子どもを通して見つめ直す機会になりました。

（陽光保育園5歳児クラス・大翔、小学五年生・通の父 伊藤耕平）

ワン・ツー・スリー のびのび体操 1・2・3



赤ちゃんからリズムへ
東京・陽光保育園 小内康寛

第11回 ヒトの上半身の特徴 その2

腕のひじから手首までの骨は2本あります。親指側の骨はとう骨。小指側の骨は尺（しゃく）骨といいますが、ひと昔前の長さを測る単位の一尺、二尺からこの名前が来たようです。ひじから手首までが約30センチです。

この2本（とう骨と尺骨）があるということがすごく大事なのです。4本足のほ乳類はこの部分が1本しかありません。ですから前後の動きしかできません。しかし、ヒトは手のひらをかえすとすることが出来ます。これを星がまたたく表現として「キラキラ」と呼んでいます。リズムでいうと「トンポ」の手を思い出してください。2歳児くらいまでは、トンポは手のひらを上にして羽を

手のひらをかえす グルグル回す

表します。ところが、3歳を過ぎると、手のひらを地面と平行にして、手のひらをかえして表現できるようにするのが（図1）。

もう一つ大事な骨を持っています。首を中心としてハンガーのような骨、鎖骨です。鎖骨は進化の過程の中では一番最後の骨だといわれています。つまり最も文化的な骨なのです。

この鎖骨があることで、ヒトは木にぶら下がったり、重いものを持ちたり、押ししたり、物を投げたりできるのです。肩や腕をグルグル回したりできるのです。

リズムでいうと、「汽車」（図2）の車輪を表す腕の動きや、「チョウチョ」のようなしなやかな複雑な動きもこの鎖骨があるからできるのです。

図2



図1



*『新婦人しんぶん』2001年2月22日号掲載

日々の保育に息づく たてわりグループの意識

夏から秋にかけては、休みや行事が重なり、たてわり保育の時間をとることがなかなか難しく、かなり間があいてしまうこともあります。しかし、たてわりグループやきょうだいは、普段の生活のなかにも根づいていて、当番活動（給食時のテーブルふきや畑の水まきなど）をたてわりのグループで行ったり、3〜5歳児が一緒に午睡明

私の戦争の思い出

荒井 輝

シリーズ 戦争 と私

（北町保育園保育士 縫島智音）

昭和17（1942）年の夏のことです。私はまだ尋常小学3年生だったと思います。今でもはっきり覚えています。暑い夏でした。父は軍隊に行き、私の住む新潟県大崎村（現 三条市）ではどの家も男の働き手はなく、田んぼや畑は母や祖母、みんな年寄りばかりでした。

私は子守で1歳半の弟をおぶり、友だちと一緒に田んぼを通る汽車道に汽車を見に行くのが楽しみでした。半日に2本か3本の汽車にいっぱい乗っている兵隊さんに日の丸の旗を降り、そこに父が乗っているのではないかと、「パンザイ」「パンザイ」と友だちと一緒に見送るのです。

その日、夜になって大変なことが起きました。私がおぶっていた弟が高熱を出し、医者さわざになったのです。今の時代と違い、ましてや田舎のこと、医者は村に一人しかなく、薬もありません。今でいえば日射病（熱中症）でしょうか。熱は下がらず、町からももう一人医者呼んできて2人で手を尽くしてくれましたが、もう助からないのではというほど症状が悪化したようです。

母も祖母も、父がいない間に長男を死なせては大変と、近所の人に隣町まで雪を買いにいってもらって頭を冷やしたりしました。雪枕といいました。そのころ氷はなかったのか、冬に降った雪を積んで夏までもたせたのだそうです。

そのようなさわざで3、4日経ったころようやく熱が下がり、お乳を飲むようになり、弟は一命をとりとめました。しかし、首が曲がったまま動きません。「アアア」と声は出ても言葉は出さず、泣くばかりです。お医者さんに、田んぼに行つて蛭（ヒル）をとってくるよに言われ、母が何匹かやってきた蛭を弟の首筋に吸いつかせたところ、弟は見る見る元気になって助かりました。蛭は毒血を吸うのだそうです。

私が考えもなく暑いところへ連れていき、病気にさせたと、ずっと自分を責め続けていました。戦争の時代、それは医者も薬もない時代でもありました。

（板橋在住／86歳）